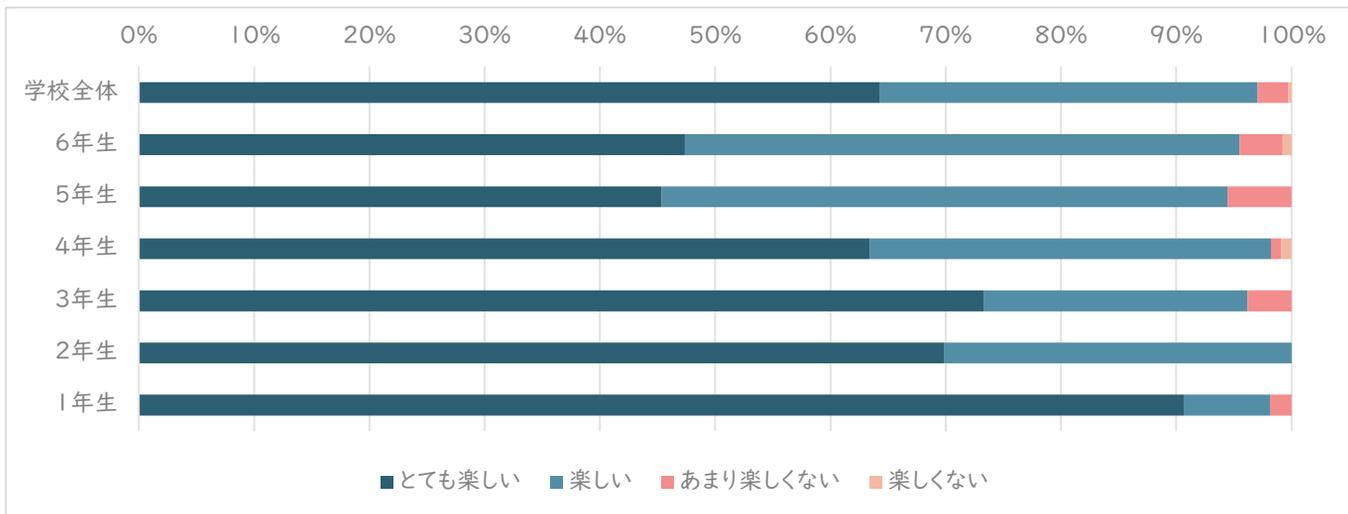


# 外国語科に関するアンケート調査結果

【児童へのアンケート結果から】

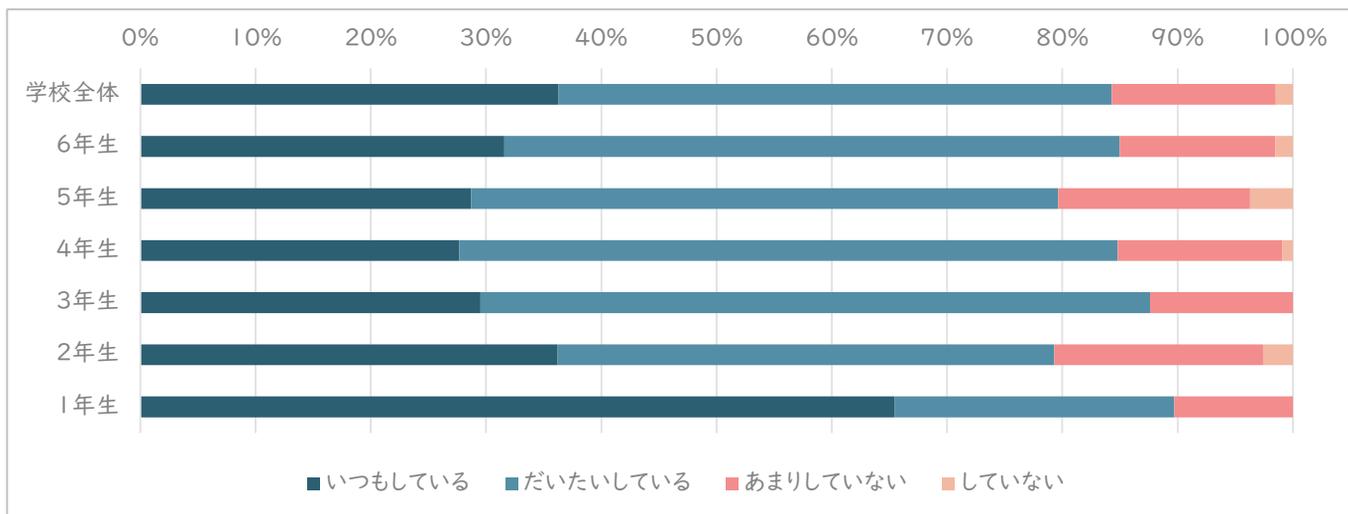
## 1. 外国語科の授業は楽しいですか。



学校全体の約97%の児童が外国語科の授業が楽しい(とても楽しい・楽しい)と答えている。伝え合う活動が重視され、ゲームなどの活動が少ない5・6年生で「とても楽しい」と答えている児童の割合が50%を下回っている。

→高学年で重視する伝え合う活動の楽しさを感じられる工夫をさらに重ねていく。

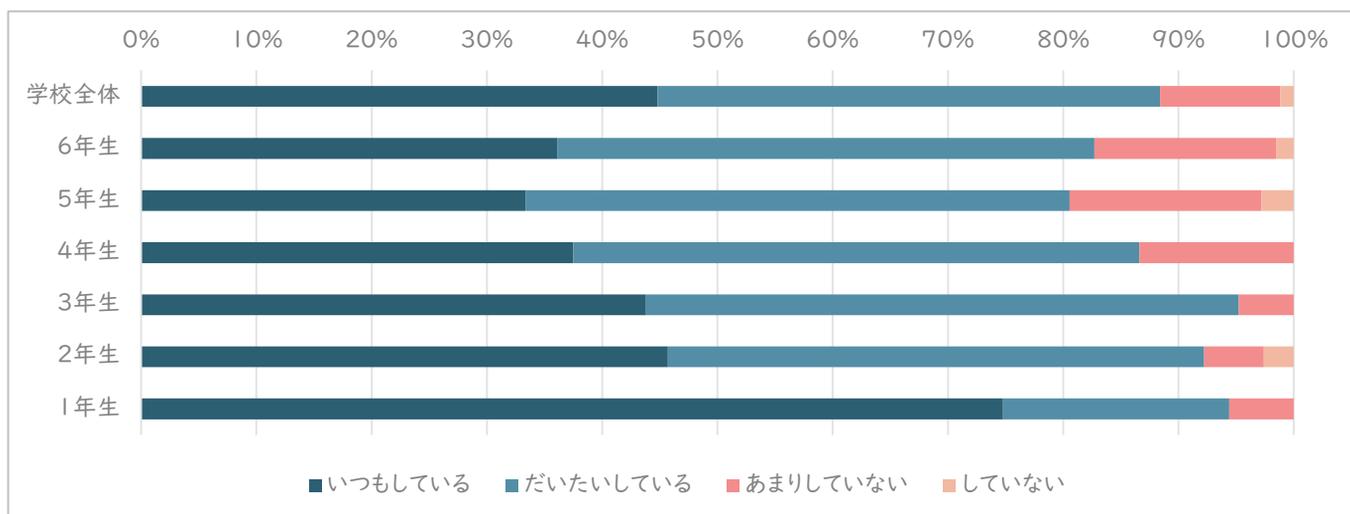
## 2. 相手に伝わりやすいようにはっきりした大きさの声で話すことを心がけていますか。



学校全体の約85%がしている(いつもしている・だいたいしている)と答えている。はっきりした大きさの声を出そうと意識している児童が多いが、なかなか大きな声が出せない、と苦手意識を持っている児童が多い実態がある。英語での発話に自信が持てていないことが影響していると考えられる。

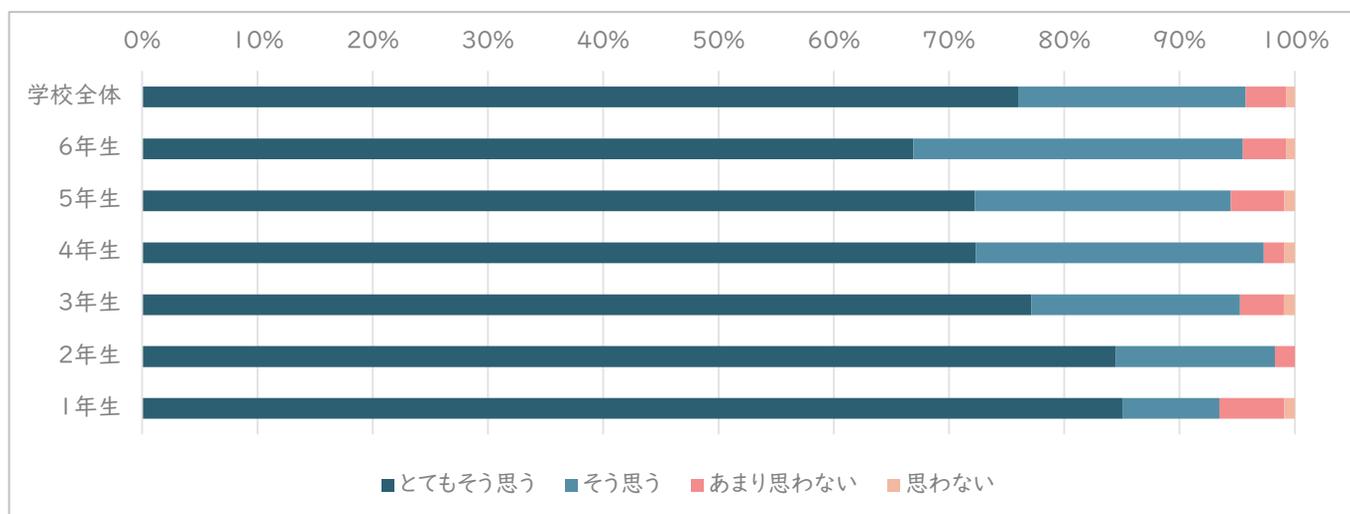
→児童が自信を持てるよう、繰り返し発話して練習する時間を確保し、それを使って言語活動に取り組むような授業設計をしていく。

### 3. 相手の目を見ながら会話することを心がけていますか。



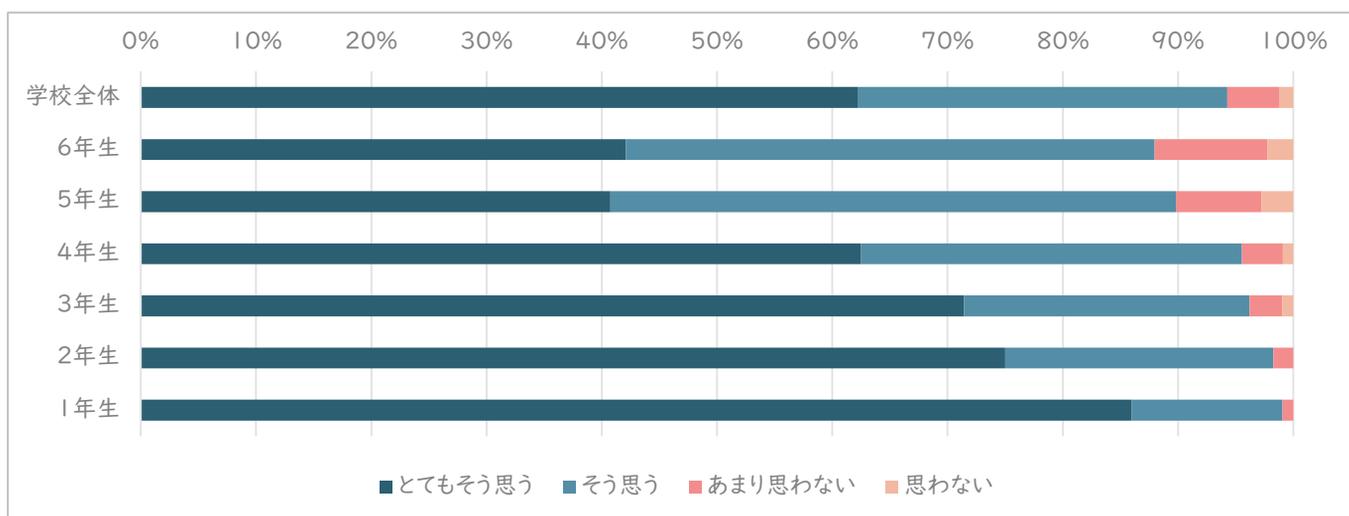
学校全体の90%近い児童が、相手の目を見ながら会話することを心がけている(いつもしている・だいたいしている)と答えている。ペアトークやグループワーク、発表の前に相手意識を確認し、相手の目を見て話すことを意識している児童が多い。  
→活動の際に相手の目を見ながら会話するよう声かけを継続していく。

### 4. もっと英語が話せるようになりたいですか。



学校全体の70%以上の児童が、「とてもそう思う」と答えており、「そう思う」と回答した児童とあわせると約95%の児童がもっと英語が話せるようになりたいと答えている。授業の中では、生き生きと英語を使って話そうとする児童の姿が見られる。外国語の授業を楽しんでいる児童も、話せるようになりたいという気持ちを持っている。  
→ALTとの連携を密にした授業作りに取り組み、もっと話せるようになりたい、という気持ちがさらに高まり、その気持ちが英語の習得につながるよう授業改善に取り組んでいく。

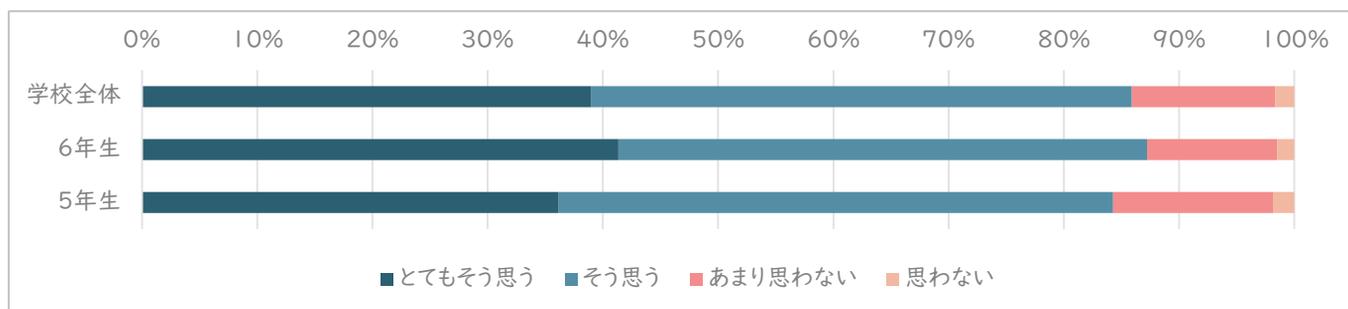
## 5. 外国語科の授業は好きですか。



学校全体の90%以上の児童が好き(とてもそう思う・そう思う)と答えている。ゲームや歌、チャンツなど、様々な表現活動を通して英語に親しんだり、友達と伝え合ったりする活動の楽しさから、好きだと感じたりしていると考えられる。5・6年生になると内容も難しくなり、苦手さを感じる児童が増えていると考えられる。

→コミュニケーションの楽しさや意義を実感できるような言語活動を実施したり、英語がわかる・できると感じられるような工夫をしていく。

## 6. 外国語科の授業はわかりますか。(5・6年のみ)



5・6年の約85%の児童が授業がわかる(とてもそう思う・思う)と答えている。しかしながら、1割以上の児童がわからない(あまり思わない・思わない)と答えている。

→児童がわかると実感できるよう、児童の理解度を見取り、それに合わせて授業内容や構成の工夫をしていく。

## 保護者・学校関係者の声

- ICT活用によって授業参加が促され、活動に前向きに取り組む姿を見ることができた。
- 授業中のグループ活動によって英語を一緒に学んでいく姿勢が培われた。
- 家庭学習に自主的に取り組む姿が見られた。